

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	【学力向上進学重点】 ① 生徒の資質・能力を更に伸ばし、進路実現に向けた柔軟で効果的な教育課程編成に取り組む。 ② 高度な課題解決力を育み、深い学びを実現する授業の実践に取り組む。	①新学習指導要領の趣旨を踏まえ、難関国公立大学やスーパーグローバル大学(トップ型)等の上級学校への進学を担保した教育課程編成を推進し、一層の指導の充実を図る。  ②主体的、対話的で深い学びの充実を実現するとともに、1人1台端末を効果的に活用するための授業の研究開発を推進し、指導の充実を図る。	①生徒が希望する進路の実現のため、難関国公立大学やスーパーグローバル大学(トップ型)等の上級学校を受験するのに求められる指導を行うための教育課程編成となっているか検証を行う。  ②教科の枠を越えた授業改善研究やそのための研修を推進し、生徒が単元の見通しをもって取組み、また、振り返りを行うことができるような指導の充実を図る。 ②Google Classroom を利用し、課題や振り返りなどの双方向のやり取りを行うことで、1人1台端末を効果的に活用していく。	①生徒が本当に望む進路を実現できたか。また、難関国公立大学等の上級学校への受験者率が増加したか。  ②1人1台端末の活用事例を教員間で共有するとともに、新学習指導要領を踏まえた組織的な授業改善の機会を設けることができたか。  ②Google Classroom を積極的に利用し、1人1台端末を効果的に活用することができたか。	①年間模擬試験計画に基づく模試の計画的な実施、6月に3年向け大学ガイダンスや2年向け大学出張授業等を実施している。 ②12月までに5回授業研修会を開催するとともに、10月に公開研究授業を開催した。 ②Google Classroom を利用した教員向け研修や授業実践、1人1台端末活用に係る研修会を実施した。各教室にアクセスポイントやスクリーン設置しICT環境を充実させることができた。	①新課程に対応した学習指導や受験指導について、引き続き研究を進める。  ②引き続き授業研修会を開催していくとともに、授業研修会や研究授業の成果を取りまとめて今後に生かす。	・教科の枠を超えた授業改善計画を具体的に知りたい ・1人1台端末の活用事例を具体的に知りたい ・学力向上進学重点校として、日頃から先生は勿論の事、生徒が前向きに取り組んでおり感心している。目標がしっかり持てるような体制がとれており、生徒も家庭も安心して川和高校の指導を見ていると思う。生徒の学習意欲が湧く指導の取り組みが素晴らしいと感じている。	①国公立、早慶の受験者数が減少し、GMARCH等の受験者が増加傾向となった。新課程生について单元ごとの指導と評価の計画や单元計画一覧表の作成によりカリキュラムマネジメントを推進できた。  ②研修会やアクセスポイント・スクリーンの整備、Chromebookの職員への配布により、ICTの活用がより活発になった。一方、環境の整備はまだ十分とは言えず、また、1人1台端末のより良い活用について模索中である。	①生徒が希望する進路の実現を目指す授業の展開について他校の情報なども得ながら研究・実践を進める。また、進路イベントの展開やキャリアパスポートの有効活用などにより生徒の進路目標の明確化を図る。  ②職員の授業用の端末の充実を図る。また、ICT研修会のより一層の充実を図る。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	【文武両道】 ①メンタルケア等が必要な生徒に対する教育相談支援体制の充実など、安心して安全な学校づくりを進める。 ②部活動や学校行事等を通してリーダーとしての思いやりやたくましさの涵養を図る。	①生徒一人ひとりの実情に応じた教育相談支援体制の円滑な運営を進め、ケース会議などの機能の充実を図る。 ②部活動や学校行事への積極的参加を促し、自分で考え、自分から行動する気質を育てるとともに、活気ある高校生活が送れるよう取り組みの充実を図る。	①教育相談コーディネーターを中心に組織的な対応を実践し、学校単位での情報共有化をさらに進める。 ②部活動・学校行事への参加を、生徒会を中心に学校全体で取り組む。また、ルールの徹底等規範意識を醸成する。さらに、体育館耐震工事に対応した諸行事や部活動の体制を整備する。	①職員間の情報の共有を密にし、必要に応じてケース会議等を開催するなど、組織的に対応することができたか。 ②行事や部活動の意義を理解させ、規範意識等社会性を身につけることができたか。耐震工事に対応した体制や環境整備に取り組むことができたか。	①3者面談のほか夏休み前後に生徒と担任の個別面談や随時の面談を実施し、生徒個々の状況を把握している。 ②耐震工事やコロナ禍であったが、生徒会が中心となり体育祭や球技大会、川和祭を着実に実施した。6つの部活動が関東・全国大会に出場している。	①引き続き生徒個々の状況を把握し適切な支援につなげる。  ②耐震工事やコロナシフトが終了した後の通常の行事について円滑に運営できるよう準備を進める。	・コロナに気を付けつつ生徒会が中心となった体育祭や球技大会、川和祭が実行出来て良かった ・川和祭は保護者が参加でき、学校での様子を見ることができて良かった ・勉強だけでなく、運動部文化部の加入率も高く、文武両道の進学重点校として素晴らしいと思う。生徒の中にはメンタル面で支援を必要とするケースもあるみたいですが、しっかりとサポート体制がとれていると伺っている。この3年間はコロナの影響が大きく生徒にとっては大変な期間であったと思うが、明るく活発的に活動されていたと思う。	①個別面談を多く設定することで生徒それぞれの状況を担任が把握することができた。一方、情報の共有や組織的な対応という面で一層の充実が必要である。  ②耐震工事やコロナ禍に対応し、安全を確保しながら学校行事を運営し、学校生活における生徒の充実感を高めることができた。一方、3年間のコロナ対応により、通常の形での学校行事運営が行えてこなかったためノウハウの継承に課題がある。また、部活動加入率は引き続き100%に近い状況であり全国大会5部、関東大会6部の実績など成果も上がっている。一方、生徒のニーズに応じた部活動運営も課題である。	①学年会の定期的な設定を行い、職員間での情報共有が進むようにする。また、SCやSSWなどの専門家との連携を強化し、組織的な支援体制を一層充実させる。  ②通常の形での学校行事運営を想定し計画を立案する。生徒の実情を踏まえた部活動運営等に取り組む。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	【進路実現】 一人ひとりの進路希望に応じた適切な進路指導の充実を図る。	①的確な情報提供や補習・講習の充実など、組織的な進路指導を推進する。 ②外部模擬試験等の活用推進を通して、有効な教科指導や進路指導の充実を図る。	①生徒のニーズに応じた夏季休業中の補習・補講を実施する。 ②ベネッセ FINE システムを有効活用する。 ③各自の端末に、模試受験前の目標、受験後の振り返りの記録をつけるように指導する。	①各教科で、生徒のニーズに合わせて現状に見合った講座の開講を検討できたか。 ②全職員が FINE システムを活用できるように研修会を開催できたか。 ③模試受験に効果的な PDCA サイクルを回すことができたか。	①夏季休業中に補習・補講を 33 講座実施した。 ②教員向け研修会を 4 月に開催した。 ③ベネッセ「マナビジョン」を活用し、指導している。	①生徒のニーズにあった講座を設定する。 ②模擬試験を進路指導に活用する。 ③引き続き生徒へ入力を促す。	・夏季休業中の補習の参加率を知りたい。 ・進路指導、支援に関しては生徒目線で補講が充実しており、安心して取り組めるのは大変良いと思う。コロナの影響がどれ程あったのか、また学校として取り組み体制をどのように変更したのか、配慮したのかは伺いたい。	①日ごろの授業をふまえ、長期休業中の補習・講習のニーズは高く、延べ参加希望者数 525 名。参加率はほぼ 9 割を超えた。 ②ベネッセ担当者よりデータの見方や生徒への効果的な声掛け等のアドバイスを受けた。 ③マナビジョンへ入力することで、試験等の目標設定や振り返りの機会を持てた。	①講習の計画を立てる際、部活動との調整が必要。 ②継続して研修会を実施する。 ③マナビジョンへの入力タイミングを事前に計画立てる。
4	地域等との協働	【連携】 地域との連携を深め、地域に開かれた学校づくりを進める。	①防災委員会を中心に地域と連携をとり、防災活動の取組みを推進する。 ②地域清掃やイベントへの参加を通じた地域貢献活動を推進する。	①消防署や近隣等との連携を進め、災害時の備えを充実させ、防災活動を実施する。 ②部活動や学年単位での地域清掃の実施や地域イベントへの参加。	①消防署や近隣等と連携し、災害時の備えを充実させ、防災活動を実施できたか。 ②地域清掃や地域イベントに多数の生徒や部活動が参加することができたか。	①消防署と連携し防災訓練や AED 訓練を実施した。 ②ダンス部がテレビに出演。吹奏楽部やクイズ同好会が地域イベントに参加した。部活動が学校近隣の清掃を実施した。	①防災意識を継続的に持ち、不慮の際に行動できるようにしておく。 ②引き続き部活動を中心とした地域貢献に取り組むとともに、取組の成果の積極的な発信にも取り組む。	・地域との連携がはかれてよかった ・コロナの関係でイベントはなかなか厳しかったと察する。基本、活動はできなかったのではないかな。	①コロナ禍のため机上での防災訓練となったが具体的な場面を想定してそれぞれの生徒が対応を考える場面を設定できた。 ②コロナの落ち着きとともに少しずつ地域イベントへの参加などの機会を増やすことができ、学校・地域の相互理解を深めることができた。	①コロナ禍の落ち着きに伴い地域との連携による防災活動について検討を進める。 ②組織的な地域貢献活動について計画、実施する。ホームページ等での情報発信を充実させる。
5	学校管理 学校運営	【信頼】 ① 保護者との連携を深める。 ② 不祥事防止の徹底を通じて県民から信頼される学校づくりを進める。	①生徒の安全安心な教育活動を担保する。また、保護者との協働による P T A を中心とした教育環境整備活動を推進する。 ②風通しがよく協力し合える職場環境を構築する。	①体育館耐震工事の状況を踏まえ、体育や学校行事、部活動などの教育環境整備に P T A と協力して取り組む。 ②業務の効率化と職員間のコミュニケーション活性化を促進する。	① P T A との連携、協働を進め、環境整備に取り組むことができたか。 ②効率化が進んだか。職員が協力し合える職場環境を構築できたか。	①PTA 等と連携し耐震工事に対応した教育活動支援や 60 周年記念事業を推進した。 ②欠席連絡のオンライン化や会議のペーパーレス化、インターネットバンキングの導入により効率化を進めている。	①今後さらに保護者との連携が進むような機会を設定する。 ②学年を軸にしたさまざまな情報共有を進め、職員の意見を反映した学校運営ができるよう取り組んでいく。	・授業参観、部活動見学等、来年度は保護者が学校へ行く機会を増やしてほしい ・学校としてコロナの影響で保護者との連携もネットを介してが多かったのではないかと思います。	①PTA 等と連携し、体育館の耐震工事を踏まえた部活動支援を行うことできた。コロナ禍の落ち着きに伴い保護者が来校する機会を確保できたが、今後一層の連携を模索したい。 ②ICT を活用した業務改善は進んだ。職員間のコミュニケーションの活性化や不祥事防止にかかる意識向上については引き続き工夫が必要である。	①保護者が来校できる機会等を設け、一層の連携を深める。 ②学年会の定期的な設定による職員間のコミュニケーションの活性化や、職員が講師となる不祥事防止研修の実施などにより、一層風通しがよく協力しあえる職場環境づくりを実施する。